

ヨーガの源流を探る

Part 2: ヒラニヤガルバとパタンジャリのヨーガ教典

(The Hairaṇyagarbha-yogaśāstra
and
the Pātañjalayogaśāstra)

まずは古典ヨーガとは？

Pātañjalayogaśāstra をもって古典ヨーガとします

というのが今回の話

そこで、混乱しがちな
「ヨーガ哲学」と「古典ヨーガ」

古典ヨーガとヨーガ哲学

ほぼほぼ同じ

- 古典ヨーガを定義するなら、先に言った通り Pātañjalayogaśāstra をもって classical yoga と
- では「ヨーガ哲学」とは？
 - 結論から言うと、これも Pātañjalayogaśāstra の哲学がヨーガ哲学

でも... ヨーガ哲学って、もっと前からあったのでは？

ヨーガ哲学が古くから存在していたことを窺わせる証拠

特にサーンキヤとの対比で (その1)

- Nyāyasūtra 1.1.29: samānatantrasiddhaḥ paratantrāsiddhaḥ pratitantrasiddhāntaḥ ||
 - Nyāyabhāṣya: yathā nāsata ātmalābhaḥ, na sata ātmahānam, niratiśayāś cetanāḥ dehendriyamaṇḥsu viṣayeṣu tattatkāraṇeṣu ca viśeṣa iti **sāṅkhyānām**, puruṣakarmādinimitto bhūtasargaḥ, karmahetavo doṣāḥ pravṛttiś ca, svaguṇaviśiṣṭāś cetanāḥ, asad utpadyate utpannam nirudhyata iti **yogānām**//29//
- ここではどのような説が自派の説となるかが規定されている。興味深いのは sām̐khya と yoga が対比されていることで、しかも yoga はいわゆる asatkāryavāda (結果は無から生じる) を唱えているとされる。一般には yoga も sām̐khya も satkāryavāda (結果は有から生じる) を奉じているとされる。
- 過去の議論では、ここでの yoga は Vaiśeṣika のことではと言う考察もある。

ヨーガ哲学が古くから存在していたことを窺わせる証拠

特にサーンキヤとの対比で (その2)

- Brahmasūtra 2.1.3: etena **yogaḥ** pratyuktaḥ | (以上によりヨーガが論破された)
 - シャンカラの注釈によると、ここで意図されている yoga は、サーンキヤ派と同様に世界の根本原因は pradhāna であると奉じている
- Vaiśeṣika とは正反対
- シャンカラはヨーガの教典を二つ以上は知っている (Pātañjalayogaśāstra を含めて)
- yoga と sāmkhya の関係のややこしさは前回話した通り

ここまでは
「**ヨーガ哲学**」
ってあったのかと言う話
一方で

「**古典ヨーガ classical yoga**」とは？

「その後にヨーガの根本的な教えとして認識される
教え、書物、教典」
を「古典ヨーガ」と呼ぶことに

そしてそれが実は「ヨーガ哲学（ヨーガ[spiritual practice]を中心に据えた哲学派）」の始まり

要は Pātañjalayogaśāstra というヨーガの統一理論を構築しようという企てが「古典ヨーガ」であり、「ヨーガ哲学」の始まり

と見ておくとその前とその後の歴史が理解できますよ、と

Pātañjalayogaśāstra

登場前夜

前回のおさらい

yogāṅga が出揃いかけていた

- 様々なヨーガ
- 色々な背景
- ゴールに向かう手立てとしてのヨーガ
- āsana, prāṇāyāma, pratyāhāra, dhāraṇā, dhyāna, samādhi などの術語の確立

Hiraṇyagarbha のヨーガ書

失われたヨーガの教え

- ヨーガの開祖を Hiraṇyagarbha* とする言明はあちこちに見つかる
- また、Hiraṇyagarbha に帰せられるヨーガの教典 (yogaśāstra*) は見つかっていない
- しかし、Hiraṇyagarbha に帰せられる教えはそこここで見つかる
- また、でどこ不明のヨーガの教えもしばしば見受けられる
- 8世紀あたりからは Pātañjala のヨーガの教えが主流になっていることからして、その登場と受容により、広く受け継がれなくなった (忘れられた? 失われた) ものと考えられる
- つまり、Pātañjala より古くに成立していた?
- そこここの Pātañjala でないヨーガ説をまとめることによって、Hiraṇyagarbha のヨーガの教えがどのようであったかはある程度再構築できる

ここで多少の説明

*Hiraṇyagarbha とは？

金の卵？

- 有名な『リグヴェーダ』 10.121 に登場する金の卵
 - hiraṇyagarbhāḥ sāmavartatāgré bhū́tasya jā́tāḥ patír éka āsīt (Hiraṇyagarbha が始めにあった。それは生類の唯一の主として生まれた。)
 - 最初の cosmogony (宇宙の始まりについての考察) とされる
- 神格化され、しばしば Prajāpati や Brahmā と同一視される。自ずから生じたことから Svayambhū とも呼ばれる
- ヴェーダータ哲学では重要な位置を占める
- ヨーガの最初の教師として、サーンキヤの最初の教師、Kapila としばしば対比される
- Hiraṇyagarbha と呼ばれた人間がいた？？？

*yogaśāstra と言った時

一般名詞

- 多くの yogaśāstra が現存する
- 一番有名なのが後述の Pātañjalayogaśāstra
- ただ、『ヨーガスートラ』というタイトルには注意が必要
 - 比較的時代が降るまで yogasūtra という用例はまれ
 - むしろ、Pātañjala とか Pātañjalayogaśāstra という用例が一般的

ここで再びヒラニヤガルバのヨー
ガにもどって...

そこで Hiraṇyagarbha のヨーガ説がどのようなものであったか ウパニシャッドの流れを汲み, ātman を追求するヨーガ

- 最初のスートラは atha tattvadarśanābhyupāyo yogaḥ (シャンカラの引用)
- ヴァイシェーシカ的に yoga をアートマンとマナス (意識) の結合 samyoga と定義? (『ニヤーヤスートラ』や『ヴァイシェーシカスートラ』が前提とするヨーガ説; Pāśupata ヨーガも参照する? Yogayājñavalkya 等にも影響?)
- āsana, prāṇāyāma, pratyāhāra, dhāraṇā, dhyāna(?), samādhi の六支 ṣaḍaṅga からなるヨーガ
- など

一方その頃仏教界では...

一方仏教界では インド仏教の最盛期？

- 非常に elaborate な修行の過程，階梯が確立していく
 - yogācāra 瑜伽業唯識派 yogācārāḥ/vijñāna(mātra)vādināḥ
 - 『瑜伽師地論』 Yogācārabhūmi
 - 『十地經』 Daśabhūmisūtra
 - などなど
- さらに，Vasubandhu（世親）やそれに続く優秀な仏教哲学者の勃興

ここに登場するのが

Pātañjalayogaśāstra

まず、Pātañjalayogaśāstra とは？

タイトル, 作者, 時代, 構成要素

- スートラとその解説（バーシュヤ）からなる（スートラ部分だけをまとめて『ヨーガスートラ』）と呼ぶことも
- 現代ではスートラの作者がパタンジャリ, バーシュヤの作者が Vyāsa と言われることが多い
 - しかし...（後述）
- 仏教との関係で Vasubandhu 以降は確実（6世紀頃？）（後述）
- 他の哲学的スートラとの関係からして古い層に属する？（Nyāyasūtra, Brahmasūtra の作者に知られている？）
- Abhidharmakośa を批判することから, 時代, 地域的に近い？







パタンジャリとは？

言語, 医学, ヨーガ

- 一義的には文法家のパタンジャリが最も有名とされるべき
- Mahābhāṣya とはパーニニのサンスクリット文法（紀元前二世紀？）に対する注釈の注釈
- 医学 Āyurveda の文脈でしばしば名前が上がるが特に重要な作品が帰せられているわけではない
- ヨーガについては周知の通り

Vyāsa とは？

マハーバーラタの作者

- 『ヨーガバーシュヤ』が Vyāsa に帰せられるのは比較的遅い（11世紀より後？）
- 多くのプラーナや Vedāntasūtra (Brahmasūtra) も Vyāsa に帰せられるが伝統は遅い

ではなぜパタンジャリ？

色々な見解

- パタンジャリという人物（紀元後2世紀頃の文法家とは別人）がスートラとバーシュヤを作ったという説
- ただし、スートラの多くはすでに存在していたので、最終的にはコンパイラ？
- 全くの別人説
- どこかその中間、でも作者の名前はパタンジャリではない（作者名不明）説

ちなみに

Pātañjalayogaśāstra と文法家の近さ

- まずは Mahābhāṣya と Pātañjalayogaśāstra の冒頭
 - Mahābhāṣya: **atha śabdānuśāsanam** . **atha iti ayam śabdaḥ adhikārārthaḥ**
prayujyate . **śabdānuśāsanam śāstram adhikṛtam veditavyam**
 - Pātañjalayogaśāstra: **atha yogānuśāsanam** || **athety ayam adhikārārthaḥ**.
yogānuśāsanam śāstram adhikṛtam veditavyam
- śabda (語) と yoga を置き換えただけ

さらに

文法家独特の言語説を取り入れる

- スポータ説
- この説を採用するのは文法家と Pātañjalayogaśāstra のみ
- 全体は部分の集合ではなく，不可分という立場
- 言語が意味をなすのは一旦文章が終わってから
- これもまた5，6世紀のバルトリハリという言語哲学者との関連で興味深い

私の考え

Pātañjalayogaśāstra とは

- パタンジャリの系統に繋がるヨーガの教典
- タイトルの性格上パタンジャリ作と解されるようになり
- さらに作者自身の名前がパタンジャリと考えられるようになった？

Pātañjalayogaśāstra の性格

端的に言ってしまうと、Pātañjalayogaśāstra は、制作当時
行われた様々な（精神的な）修行を統合し、なおかつ独
自の哲学も構築しようとした力作

様々なヨーガ

ヒラニヤガルバのヨーガ（バラモン教系）と仏教ヨーガを融合

- 2.28 以降の8支ヨーガは広くウパニシャッドから確立してきたバラモン系のヨーガの体型を取り入れる
 - āsana, prāṇāyāma, pratyāhāra, dhāraṇā, dhyāna, samādhi
- 第1章のヨーガ説は仏教のヨーガの超簡略版
 - nirodha, samāpatti, citta, vitarka, vicāra, bhūmi などといった概念は仏教ヨーガから
- 神に祈るという一神教的ヨーガ（仏教やシヴァ教からの影響？）

様々な哲学

サーンキヤの一派というのは失礼

- サーンキヤ的な枠組み（プルシャとプラクリティの出会いから世界が始まる）
- しかし、神の存在（唯一の最高神に関する思索，証明，シヴァ教やヴィシュヌ神教からの影響？）
 - 非常に高度な全知者なる神の存在証明
 - これも仏教に触発された？
- さらに，文法哲学からの影響：スポータ説
- 仏教の思想を 180
 - 何が実在か：基体か属性か？
 - 属性（dharma）というのが仏教徒
 - 基体というのが PYS の立場
 - Vasubandhu の議論を用いながらそれを真逆に
 - さらに，仏教徒の時間論（刹那滅論）への批判

では Pātañjalayogaśāstra の存在意義とは？

古典ヨーガとヨーガ哲学の始まりというのに相応しい

- 継ぎ目にやや綻びは見られるものの、非常に野心的な、極めて哲学に通じた作者によるヨーガを統合しようとする企て
- 長いこと Pātañjala の哲学と認識されるも、哲学学派としての地位を築く
- 次第に「ヨーガ哲学」と認識されていく